

都道府県名

宮 城 県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	加美郡加美町立中新田中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	3	15	29
生徒数	141	156	151	5	453	

研究の概要

## 1. 研究主題

自ら学び、確かな学力を身に付ける生徒の育成

## 2. 研究内容与方法

## (1) 実施学年・教科

・全学年・必修9教科  
「学力」は、一部の学年や教科だけの取組で身に付くものではなく、9教科全体で組織的に取り組むことによって育まれるものであることから。

## (2) 年次ごとの計画

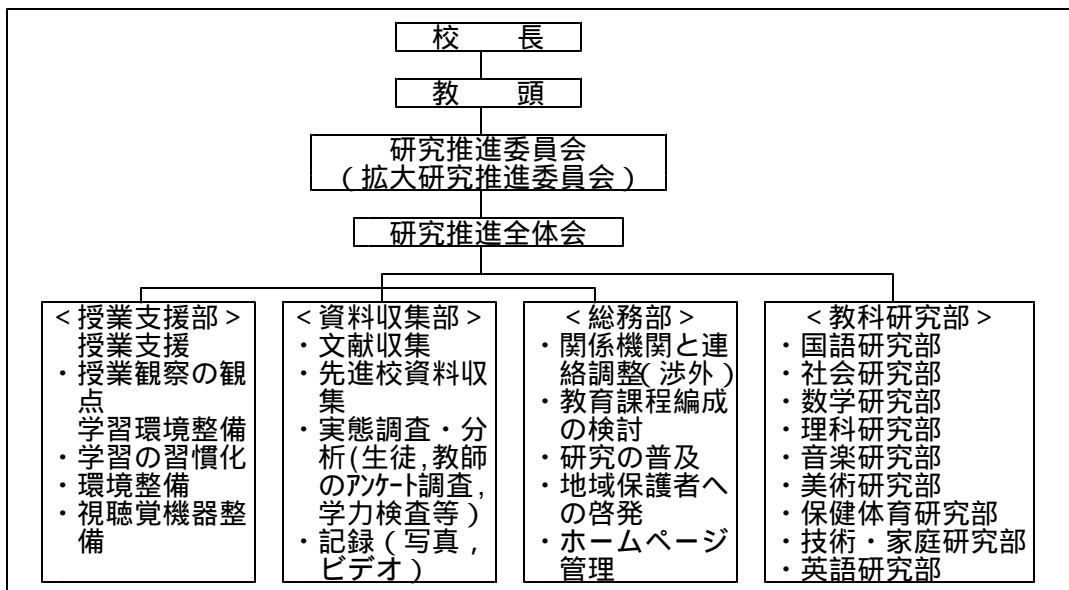
平成14年度	<p>テーマ：「夢を描き、力強く活動する生徒の育成」  - 基礎・基本の定着を図り、生徒が喜びを味わえる学習活動の在り方 -  仮説：日々の授業実践の中で基礎・基本の定着を図る工夫を行い、生徒が喜びを味わえるような学習活動を以下のように行えば、夢を描き、主体的に力強く活動する生徒を育成することができるであろう。  (1) 学習のねらいに即した、学習活動を支援するワークシートの活用。  (2) 少人数指導における学習形態や学習内容の工夫。  (3) 指導と評価の一体化を図った学習過程の工夫。</p> <p>研究の内容・方法  (1) 各教科における基礎・基本及び確かな学力などについて研修。  (2) 研究組織作りと指導内容や指導方法、指導体制の確立。  (3) 全校生徒、全教員を対象に、学習に関する意識調査、分析、考察。</p>
--------	--

平成15年度	<p>「学力」を見直し、本校における「学力」を、本校の「生徒に身に付けさせたい力」とし、「感じとり、受けとめる力」「かかわり合い、深める力」「創造し、表現する力」の3つにまとめ、テーマを次のように変更し、必修9教科で取り組むことにした。</p> <p>テーマ：「自ら学び、確かな学力を身に付ける生徒の育成」  仮説：単元あるいは単位時間の学習過程において、次のような場面を設定すれば、自ら学び確かな学力を身に付けようとする生徒が育つであろう。  (1) 新しい見方や考え方に気付くことができるような教師の発問と場面を設定する。  (2) 意見を交換し、自分の考えや意見を振り返る場面を設定する。  (3) 学んだことを生かして、表現する場面を設定する。</p> <p>研究の内容・方法  (1) 興味を引き出し、意欲がもてるような教材の開発及び提示の工夫  (2) 個に応じた支援がなされるような学習形態や指導体制の工夫  (3) 生徒の学びを正しく評価するための手立ての工夫  (4) 生徒の思考の流れに沿った指導過程の工夫</p>
--------	---

平成	<p>平成15年度の研究の継続  テーマ：「自ら学び、確かな学力を身に付ける生徒の育成」</p>
----	--

成 16 年 度	仮説：単元あるいは単位時間の学習過程において，次のような場面を設定すれば，自ら学び確かな学力を身に付けようとする生徒が育つであろう。 (1) 新しい見方や考え方に気付くことができるような教師の発問と場面を設定する。 (2) 意見を交換し，自分の考えや意見を振り返る場面を設定する。 (3) 学んだことを生かして，表現する場面を設定する。 研究の内容・方法 (1) 興味を引き出し，意欲がもてるような教材の開発及び提示の工夫 (2) 個に応じた支援がなされるような学習形態や指導体制の工夫 (3) 生徒の学びを正しく評価するための手立ての工夫 (4) 生徒の思考の流れに沿った指導過程の工夫
-------------------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

自作のワークシートにより，生徒の気付き及び思考の広がりや深まりに焦点をあてた学習を展開することができ，学びの質を高める支援ができるようになった。また，生徒の学習意欲の喚起や意欲の継続にもつながった。

一斉指導においても，グループ学習を取り入れることにより，グループ内で自分の考えを伝え合ったり，教え合ったりするなど，意見交換が活発になり，学び合いの姿が見られるようになってきた。

1人の教師よりも2人の教師，一斉指導よりもTT指導，TT指導よりも少人数指導というように，指導体制や学習形態を変えることにより，生徒の学習内容の理解につながり，個に応じた指導には有効であることが明確になった。また，生徒にも比較的肯定的に受け入れられるようになっている。

教師一人一人が，基礎・基本の定着と学力の向上を意識した授業実践に取り組み，指導力の向上につながっている。

2. 今後の課題

1人の教師による一斉指導においては，グループ形態の学習を取り入れるタイミングとグループ編成の工夫，教師の支援の在り方の工夫が一層必要である。少人数指導は有効であるが，教師の担当時数には限界があることから，一斉指導，TT指導，少人数指導，それぞれのメリットを生かし，単元や学習内容により，適切な場面での使い分けを一層工夫していく必要がある。

TT指導や少人数指導における指導と評価の在り方について，教師同士が共通理解を図るための時間の確保の工夫が必要である。

生徒の学力の向上を見取る適切な方法とデータの蓄積及び分析の手立てを考えていく必要がある。

## 学力把握のための学校としての取組

### 標準学力検査

- ・検査名：「教研式 学習指導テストバッテリー・全国標準学力検査NRT」
  - ・学年(教科)：1年(国語,社会,数学,理科) 2・3年(国語,社会,数学,理科,英語)
  - ・実施日：4月14日(月)に実施
- アンケート(意識)調査
- ・全校生徒を対象に7月18日(第1回)と3月(第2回)に予定

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

### 公開研究会の開催

本校の研究の概要を発表し、広く指導助言を得るため、平成15年10月29日(水)古川管内の小中学校の教員を対象に中間公開研究会を開催した。主な内容は、研究概要説明、6教科の公開授業と研究協議である。

ホームページ掲載 平成16年3月本校ホームページに掲載予定

### 研究概要の発表等

- ・5月2日 古川管内教育研究会加美支会中学校研究部総会(研究概要発表)
- ・5月13日 古川管内小中学校研究主任研修会(研究概要発表)
- ・7月28日 南方町立南方中学校校内研修会(研究概要発表)
- ・8月22日 古川管内教育研究会加美支会中学校研究部研修会(研究概要発表)
- ・12月18日 古川管内教育研究会広報紙(中間公開研究会の概要の掲載)
- ・2月10日 第2回教育改革フォーラムin仙台(研究概要発表)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校      ■ 14年度からの継続校
- 【学校規模】               3学級以下                       4～6学級  
                                  7～9学級                       10～12学級  
                                 ■ 13～15学級                    16学級以上
- 【指導体制】              ■ 少人数指導                      ■ T・Tによる指導  
                                  その他
- 【研究教科】              ■ 国語                      ■ 社会                      ■ 数学                      ■ 理科  
                                 ■ 外国語                   ■ 音楽                      ■ 美術                      ■ 技術・家庭  
                                 ■ 保健体育       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】      ■ 有       無